

やかたらい

第46号

令和2年
3月

地域等における男女共同参画について、
小田部校区自治協議会の松永マツエ会長と
区男女共同参画をすすめる会の委員で、
対談しました!【in小田部公民館】



【区男女共同参画をすすめる会委員(以下「すすめる会」)】 松永会長が地域活動に関わるようになったのはいつ頃からですか?

【松永会長】 PTAから地域活動を始めました。それから女性協議会(現在の男女協)で校区の代表となったけど、そのとき、校区代表がなかなか決まらず、くじ引きで決まりそうになったので、“それなら私がやる”と言ったんです。平成8年からは町内会長をつとめ、そのとき、他の町内会長から、“何で女のくせに会長になったのか”と言われてたけども、“私は町内から推薦された。あなた方に言われることではない”と言ったんです。そのとき町内会長で女性は私ひとりだった。自治協の会長になったのは、周りが、“あなたは実績がある。だから自分たちが支える。”と言ってくれたから。

【すすめる会】 何事も、『私でよかつたら』という気持ちと自主性が肝心ですね。まだまだ会議やイベントでは性別による役割分担になっているように、感じます。

【松永会長】 小田部校区では、イベントなどはすべて実行委員会を組織し、性別による役割分担をしないようにしています。1人1人が自分を活かせる場がある。男性・女性ではなく、一緒にみんなで同じ目標に向かってやっていくことが大事。



松永マツエ会長

【すすめる会】 地域にはいろいろな人がいる。その人の持ち味が生きて、みんなが過ごしやすいまちになればと思って私達は活動しています。そのために、男女協委員は研修で学び、会議で発言していかなければと思ってます。

【松永会長】 小田部校区は、男女共同参画が地域力の底上げになると考え、さらに、つながりを大事にしたいという思いを込めて、組織名称を「男女共同参画地域力向上委員会」に変えました。男女協は地域力を上げる。校区の盛り上げ役として活躍してほしい。



【すすめる会】 松永会長を見てみなさん頑張っているのじゃないかな。

【松永会長】 地域活動が、自分の年も忘れさせてくれる。健康で元気でいれるのは自分の役割があるから。責任感が大事。住民のために活動することが地域を元気にしますよ。

令和元年度委員紹介

百道浜 福田 芳子	西 新曲 手 さよみ	百道 石田 美幸	高取 一坊寺 優子	室見江 藤 みどり
原 松永 真喜子	大原安 藤 洋子	小田部 吉住 千恵	飯倉中央 東 いずみ	飯原岡部 良子
原 西永倉 都美子	飯倉細川 勝子	有田利谷 律子	有住中村 名菜代	賀茂池田 久枝
田 隈有吉 文子	田村緒方 豊子	野芥上原 緑	四箇田古殿 倫子	入部上村 義行
脇山馬男木 徹	内野曲淵 高倉 多恵子	早良石橋 れい子		

早良区男女共同参画をすすめる会 活動紹介

奇数月 全体会
(意見・情報交換会)



7月 委員研修会
「さんかくいいね!～男女共同参画が実現したら～」 講師:倉富 史枝さん(NPO法人福岡ジェンダー研究所)

Cブロック研修会
「女もつらいが、男もつらいよ」 講師:福永 宅司さん(子どもの学び館 代表取締役)

9月 Bブロック研修会
上映会『Girl Rising ～私が決める、私の未来～』

10月 Dブロック研修会
「ワクワクするコミュニティづくり」 講師:松田 美幸さん(福津市副市長)

11月 男女共同参画映画上映会「ドリーム」
※福岡市の男女共同参画強調週間「みんなで参画ウィーク」に関連したイベント!!



12月 Aブロック研修会
「変わってしまった女」と「変わりたくない男」
講師:三浦 清一郎さん(生涯学習通信「風の便り」編集長)

地域ですすすめる男女共同参画 早良区男女共同参画をすすめる会 会長 緒方 豊子

「早良区男女共同参画をすすめる会」は、各校区で男女共同参画社会の実現をめざして活動しています。男女共同参画を広げる難しさを感じながらではありますが、「人権」が基本であることを確認しながら、校区を越えて学び合っています。

そして、今、地域は少しずつ前にすすんでいます。「男だから」「女の仕事やる」などの決めつけた言い方や役割分担は少なくなっています。性別に関わりなく「その人らしさ」が活かされる地域となるようみんなで男女共同参画をすすめていきましょう。

次のページに「早良区男女共同参画をすすめる宣言」を紹介していますが、それを実行する意識からも①それぞれの校区で考える機会(研修の場など)を持ち②その結果学び気づいたことがあれば発信し③各団体の活動と連携しながら④自治協議会の一員として校区活動を盛り上げていきたいと考えています。これからも、私たちの活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



各校区の男女共同参画推進組織では、下記の宣言に則り「校区活動に男女共同参画の視点をもたらすこと」を目指して活動しています。

早良区男女共同参画をすすめる宣言

- ①地域で「男女共同参画について考える機会」を提供し、個々の意見を尊重・共有する。
- ②学びと気づきに努め、その成果は発信する。
- ③公民館や校区の各団体の皆さんとの連携に努める。
- ④自治協議会の一員として、「男女共同参画の視点」から校区行事を盛り上げる。

Aブロック研修会

「変わってしまった女」と「変わりたくない男」 (野芥・四箇田・入部・早良・内野・曲淵・脇山校区)



講師：三浦 清一郎さん(生涯学習通信「風の便り」編集長)

「妻のおかげで今は何でもできる。」と、8年前に連れ合いさんを亡くされた三浦さんの言葉で始まりました。研修会の中で、印象に残った言葉・フレーズをいくつか紹介します。

【筋肉文化】肉体労働が多かった時代、女性を従属させ、男性主導社会を作ったのが筋肉文化です。しかし、機械化・自動化により女性にできないことはほぼ消滅していきました。それでも男女共同参画が進まないのは、居心地のいい場所にいる男性が抵抗勢力となっているからです。

【男性は何も分かっていない!】“夫原病”。妻の病気の9割は夫が作る。高齢女性の病気は、何もしない夫が家庭にいることによるストレスが原因です。そこで夫が、退職後を守る5箇条①名刺を焼きなさい②妻を上司と心得よ③戦わずして負けよ④0から学べ⑤“ありがとう”を口癖にせよ【川柳「ゴミ袋、捨てなければ、私が捨てられる」】

私たちの中に、そして社会の中にある伝統・文化を時代とともに、見直すことの重要性和難しさを実感した講演会でした。さらに、力の湧いてくる会となりました。(入部校区 上村 義行)

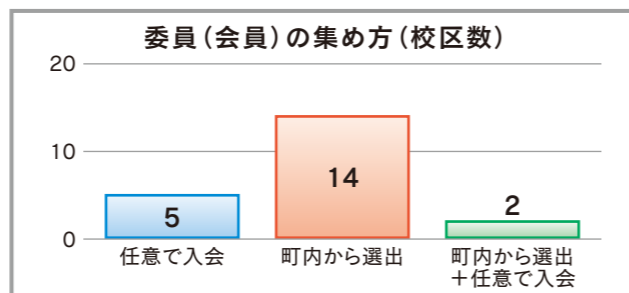
各校区の男女共同参画推進組織にアンケートで実態調査しました!

(※21校区回答あり)

委員(会員)の集め方

- ①校区内から任意で入会、②町内から選出、③校区内から任意で入会+町内から選出の3通りの集め方がありました。

数値については右記のとおりです。



役員決め方と問題点

役員決め方は「委員による互選」が多く占め、アンケートの中には「後を継ぐ人がおらず、何年も同じ人が役員を務めている」と役員選出に苦慮している校区もありました。地域の担い手不足は、他の諸団体と共通の課題です。担い手を育てていくこと、新たな人材を発掘することは男女共同参画の視点が大きい必要です。性別に関係なく、広い視野で地域を見てみましょう。

自治協議会の中でやってみたいこと

「避難所運営等訓練に主催の防災関係団体と協力し、企画・運営に参画したい」という意見がありました。男女共同参画の視点は、自治協議会や他の諸団体でも必要不可欠です。さまざまな人が地域の意思決定に関わり、男女共同参画の視点が、あらゆる地域活動に反映されることをめざして、これからも地域の諸団体と連携しながら活動の輪を広げていきます。

校区活動紹介

「おっさんずラブ」的男女共同参画!?百道校区文化祭

平成31年3月に移転・改築された百道公民館は、1階部分が公民館・老人いこいの家で、2階は小学校の体育館兼講堂です。この新しい公民館&体育館で開催された文化祭で、パネル掲示による啓発活動を行いました。流行語にもなったドラマ「おっさんずラブ」のセリフ「好きになるのに、年齢とか性別とか関係ないっしょ」を男女共同参画的(?)に変換した「地域活動に、年齢とか性別とか関係なかるーもん」を合言葉に、互いに尊重しあい、共に歩む社会を目指して活動中です。



(百道校区 石田 美幸)

皆さんの出番ですよ!!昔ながらの味噌づくりをおしえて

有住校区では、高齢化がすすみ独居・高齢者夫婦世帯が多くなっており、自治協議会の方々とひきこもり対策など様々な事業に取り組んでいます。

男女協では、女性・男性に関わりなく、一人の人間として自立するために一人ひとりが「衣・食・住」に関わっていくことも一つの対策だと考えました。特に、「食」の分野に重点を置き、家庭の味を自分で作り出すということで、「味噌づくり」にチャレンジしました。“昔とった杵柄”と腕に自信のある地域の方々にご指導いただき、実りある一日となりました。

これからも先輩方の培われた知恵が地域の活性化につながるように、取り組んでいきます。(有住校区 中村 名菜代)



介護は突然やってくる

脇山校区では、自治協議会・ふれあいネットワーク合同リーダー研修会を実施し、「介護は突然やってくる～こんな時どうすれば?～」と題して、さわら南よかとこネットの林 隆一さんに講演していただきました。

「今までは何気なく生活していたが、段差につまずき転倒。なんとか這いつくばって電話のところまでいき、救急車を呼び、救急病院に。診断は大腿骨骨折。これから先どうすれば…」退院後は?介護保険、福祉用具、施設、その他認知症など、いろいろなケースの体験を交えながら説明していただき、心配なことは、ケアマネージャーやさわらいいきセンターに相談すればいいこともわかりました。



いままでは親の介護、これからは、私あるいは配偶者。考えてもみなかった事が突然やってきたら、私たちならどうするだろうか?“突然”起こる“介護”や生活の変化などに対応できるように、男女共同参画の視点からも、現状の見直しからはじめ、少しでも快適にすごしていけるよう、“家族”一緒に考えることが大切だと考えます。

(脇山校区 馬男木 徹)